

同かふいていへん

北山修 加藤定彦の同

何れをもとめてふりかえつても

そなたは 正に同木吹いていへん

人曰れども来てしつせつなきにけり

ふりかえり

何年かの歌なりか

なせ木心にひびいて来

まじりて正にすさんでも

正に 同木吹いていへん

いゝ歌なりと思つていへん

今になつて そろそろな

と少かる

何ごとも体験しなす山ば 理解すること

不登つかるい

私の人五体験 皆無でけり

すうと通りすきてしそいぶちが多い

今といふ時を見つぬことなく通過して

しそい 夫敗しんもつとこうあは

すか？ 正に いそいそとていはい

時だつた

と身になつて心の甲で

ふりかえる

たど目が吹いていゝだやでやう

大甲白だつて思ひ出を正の蘇に心にしなつて

おきと

忘れしそつたはありえな

な時はおそろしい

とやうに變化するかははわり知れな

すうふくても

今はあすはさしことは存いと自分の心と

信じている

今日はずつと雨ふりだ

いい風が吹いてほしい

2022  
11/23